

## 第2回 淀川区地域福祉推進ビジョン策定に関する意見交換会 議事要旨

1 日 時 令和4年8月9日(火) 午後2時00分～午後4時00分

2 場 所 淀川区役所 6階 601・602 会議室

3 出席者

(意見交換会メンバー)9名中7名出席

座長:種村 理太郎

メンバー:太田 久美子、大西 美佐子、小澤 明、川田 誠

中西 恵、西尾 喜美子、

(淀川区役所)

岡本区長、橋本副区長、長谷川市民協働課長代理、中谷市民協働課担当係長

山川保健福祉課長、武田保健・子育て支援担当課長、竹田福祉担当課長代理

櫻井保健副主幹、北出保健福祉課担当係長、山本

4 議 題

(1)淀川区地域福祉推進ビジョン(たたき案)について

(2)今後のスケジュールについて

5 議事要旨

<第2章>

- ・ 淀川区は、住民の出入りが多いというのは何年も前から言われていることなので、これをまた書くことは、何も進んでいないということにならないか。地域活動を担っているのが高齢者、長く住んでいる人というのが実情。
- ・ 特徴としてその転出入が多い等の情報は書いておく方が良い。
- ・ 転入出は土地柄がある。それがイコール地域の希薄化に繋げるのではなく、大阪市内で人口が2位、出生率は1位なので、課題だけではなく、良い評価も含めた表現はどうか。
- ・ データとして障がい者の部分に関しての表現の仕方は要検討。
- ・ 2章は淀川区の現状を把握するという意味で必要。

<ネウボラ>

- ・ 「ネウボラ」を使うなら、これのどこが「淀川区版」なのか、「ネウボラ」のどこを淀川区が行

っているのか。全く同じものをできるはずがないので、「ネウボラ」の名前を使っただけになってしまって逆効果になってしまう。その名前を使うことが気になる。

- ・ あえて「ネウボラ」の言葉を今使うのが良いかどうか。
- ・ 「ネウボラ」については、その説明と、淀川区としてどこに着目してやっていくのかを説明すべき。もしくはその精神は「ネウボラ」であったとしても、もう少しわかりやすい言葉で表現してみても。
- ・ 「ネウボラ」の一番の特徴は同じ担当者が生まれる前から関わって、その家族全体の支援を見守り続けるということ。そこができないのであれば、大きく「ネウボラ」のカタカナをアピールしなくても、本当に4歳児・5歳児も力入れていきますので、それで良いのかなと思う。
- ・ キーワードというようなものの用語を用いることによって、インパクトやこの言葉を周知したいという意図があるならば、この言葉を使っていくのは一定の効果があるのではないかな。
- ・ 「ネウボラ」の名称を使うことは戦略的な手法であれば、旗を上げる限りは中身がなかったでは何の意味もないので、区役所として充分認識していただいて、責任でその中身づくりをしていただければ定着していくのではないかな。
- ・ いわゆる家庭養育されている家庭でも、妊娠期、出産、育児が繋がっていますということを一番伝えたいのであれば、説明の仕方において、キーワード先行にならないように周知を。
- ・ 切れ目のない支援があることは安心感に繋がる。ぜひ推進して欲しい。
- ・ 内容が当事者の方たちに、充分伝わるような形での表現方法というところが一番最優先事項になってくる。まとめる時にこの内容のイメージ図みたいなのが一緒にあると良い。

#### <災害>

- ・ 被害パターンに高潮を載せるべき。
- ・ 高潮で10メートル浸水したら、淀川区ほとんどが水没する。行政としてどう捉えるのか。
- ・ 災害時避難するのが困難な方(要援護者)についてはもちろん、自分で動ける人も災害のことを考えていけるような施策、その周知が必要。
- ・ 垂直避難と水平避難を使い分けるのが地域でも必要なのかなと思います。
- ・ 要援護者の支援体制の充実だけではなく、地域の人材づくりにもリンクしてくる。防災というテーマを通して、地域の中の世代間継承をしている。

#### <担い手>

- ・ 広報媒体も、SNSなど紙媒体だけではなくデジタル媒体も利用する。
- ・ 家族で参加する行事を充実させて欲しい。子どもは地域活動が自然に身につく、親世

代は今まで無関心だった自分の地域のことも子どもを通して新たな発見がある。地域で何ができるかを想像することができる。今すぐの担い手には難しいが、もしかしたら子どもが大きくなった時に、自然と参加できる地域になるのではないかなと思う。

- ・ 地域の敷居の低い活動をどういうふうを増やしていくか。

#### <相談支援体制>

- ・ 行政はきめ細かい受け皿ができています。しかし、福祉の全部網羅していくのは不可能、実際それを活用している方がどれだけいるのか。それをいかにつなげていくかが必要。
- ・ 一番信頼している人から聞いた情報、口コミが一番強い。それぞれ一番信用している人ってというのはまたいろんな方である。高齢者だからといって高齢者にだけ周知するのではなく、いろんな年齢層に向けて、広く周知が必要。
- ・ 顔の見える関係性の構築を深め、関係づくりをはかっていきたい。連携を図るところには時間を割いていかないといけない。
- ・ 生活困窮者、障がい、子育ての悩み、虐待もそうですけども、家族の中で、悩みや困ることが一つではない。家族の中で重複している様々な悩みや困りごとをキャッチしなければならぬ。
- ・ 共通の相談支援ツールを運用するなどの必要性は高い。
- ・ お困りの方の情報が、キャッチできていないのが現状。誰でもが情報をキャッチしやすい方法があれば良い。
- ・ 地域課題を、子ども、高齢者、障がい者をどういうふうここに集約していくのか。それぞれの分野が持っている地域課題を検討する、共有するというのを、淀川区生活困窮者支援会議とどう繋がっていくのか。